

平成 16 年度 新発田市政策大綱

1 本市を取り巻く社会経済情勢

今日の国際社会においては、先のイラク戦争やテロの横行、新潟県とも関わりの深い北朝鮮を巡る問題等、安心・安全な市民生活を脅かしかねない様々な課題が現出しています。

また、国内・県内においても心を痛める青少年犯罪の多発や原子力発電所の安全問題等、市民にとっては不安の種が尽きません。

そうした中、国内の経済状況を見ると、2003 年 4～6 月期の実質 GDP 成長率は、前期比で 0.3%増加し、ここ数期はプラス基調を維持しています。

雇用情勢においても、7 月の完全失業者率（季節調整値）は 5.3%と横ばいですが、失業者数は 342 万人と、3 月以来減少傾向が続いています。

一方で、地域経済においては、新発田職業安定所管内の 7 月の有効求人倍率（常用）は 0.31 と県平均並に回復しているものの、中小企業景況調査によると、7 月全業種の業況で極めて不振となっており、数値で表される以上に経営者は景気の悪さを感じていることが覗えます。

政府は 6 月に閣議決定した「経済財政運営と構造改革に関する基本方針（骨太の方針）2003」において、依然としてデフレが続いているとの判断を示し、「3つの宣言」として「経済活性化」、「国民の『安心』の確保」、「将来世代に責任が持てる財政の確立」を掲げ、規制改革や構造改革特区をはじめ、更なる構造改革・経済再生を推し進めることとしています。

特に、「将来世代に責任がもてる財政の確立」の中では、「『国と地方』の改革」を掲げ、三位一体の改革による国と地方自治体の望ましい姿を示しながら、一層の地方分権を推進することとしており、地方自治体に課せられる責任は、ますます大きくなるものと予想されます。

そうした中、本市は、平成 15 年 7 月 7 日に豊浦町との合併を果たし、県北地方の中核都市としての新たな一步を踏み出しました。

来年度の竣工を控えた「新発田城三階櫓・辰巳櫓」や月岡温泉をはじめとする、自然・産業・歴史・文化の地域資源を有機的に結びつけ、地域の個性を活かした新しい新発田市の姿を全国へ発信する基盤が整ったと言えます。

今後は、合併のメリットを存分に活かし、全ての市民が満足する「まちづくり」を進めるとともに、地方分権時代に対応し、自立した地方自治体として安定した行財政運営を確立していくことが求められています。

2 施策展開の基本方針

「平成 15 年度政策大綱」においては、行政分野を越えて全庁的に取り組むべき「食と農の資源循環型社会づくり」、「健康しばた 21 めざせ 100 彩」、「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」の 3 つの課題と、それらに関連する重点基本事業を示し、重点的に予算配分をすることとしました。

同時に、「平成 14 年度政策大綱」で示した重点施策についても、行政評価システムを活用して検証を進めるため、引き続き重点的に推進することとしました。

平成 16 年度においても、引き続き重点施策、重点基本事業ともに変更しないものとし、現在までの取り組みを評価しながら、目標達成に向けた効率的・効果的な施策を展開することとします。

併せて、「新発田市・豊浦町合併まちづくり計画」に掲載された事務事業の計画的かつ着実な推進を図ることとします。

しかしながら、別途「平成 16 年度当初予算編成方針」においても示すとおり、市税で約 3 億円の減収が見込まれるなど、財源確保が非常に厳しい状況にあるため、平成 16 年度の施策展開に当っては、行財政改革のより一層の推進と行政評価システムを活用した「成果優先度評価」、「コスト削減優先度評価」の実施により、統廃合を含めた事務事業の徹底した見直しを行うものとします。

また、固定費・運営費についても徹底した効率化を図るとともに、当初予算積算の精度を向上し、補正予算での対応を必要最小限度に留めるものとします。

さらに、これらの改革の着実な推進には「聖域なき」検証が不可欠であり、歳入・歳出においても、一般会計・特別会計の別に関わらず「聖域」を設けず、繰出金のあり方や受益と負担などについても踏み込んで検討するとともに、これらの取り組みについて、市民への積極的な情報の公開を推進します。

こうした取組みを通じて、「市民満足経営」「安定経営」による、市民起点に立った行財政運営を実効あるものとするとともに、より一層の効果的なまちづくり施策を展開し、本市のめざす「共創」の理念を実現するものとします。

課題	「食と農の資源循環型社会づくり」の推進
-----------	----------------------------

「資源循環型社会づくり」は、廃棄物の発生抑制や適正処理という環境保全の観点だけでなく、農業、商工業、教育、市民生活等様々な分野にわたり、食料の生産、加工、流通、消費の各段階において産み出される有機資源の有効活用を核として、資源の地域内循環を生み出し、地域経済の活性化につなげていくことを目的としています。

本市は県内でも有数の畜産生産地域であり、畜産農家の新たな課題である「家畜排泄物の適正処理に関する法律」への対応から、良質な堆肥の原材料として家畜排泄物の活用を推進するとともに、食品関連工場や共同調理場等から排出される食品加工残さについても、有機資源として堆肥化を推進し、ゼロエミッション・システムづくりをめざします。

加えて、一般家庭からの生ごみや農業集落排水の汚泥、里山の落葉や街路・公園の剪定木なども有機資源として活用を推進します。

こうして生産された、良質堆肥の農地への還元による「土づくり」によって、農薬や化学肥料の使用量を減らし、安心・安全な食料生産を基本に、有機農業の推進による農産物の付加価値化を図り、新発田ブランドの確立を促進するとともに、地産地消の取り組みを進めるため、地場産農産物を活用した学校給食や福祉・医療などの分野への給食提供を推進します。

また、食農系高等教育機関の誘致や既存教育機関での食農系カリキュラムの導入を図り、地元食品関連企業との連携によって、優秀な人材の供給や、食品研究・開発を促進します。

これらに基づき、平成 15 年度においては、資源循環型社会づくりプロジェクトを組織し、専任して課題に取り組める体制を整えるとともに、市民、地域住民への啓発、地域での合意形成を進めてきました。

また、総合的な学習の時間の活用による食農教育や地場産農作物の学校給食への提供などを推進してきました。

平成 16 年度においては、有機資源活用の核となる堆肥化施設の建設を優先的に取り組みます。

さらに、堆肥を活用した有機農法による農作物の付加価値化や、学校給食などへの地産農作物のさらなる提供などを進めます。

【平成 16 年度の重点基本事業】
<ul style="list-style-type: none">・ し尿処理汚泥・生ごみ等の堆肥化によるリサイクルの推進・ 地域特性を活かした食農教育の推進・ 教育施設整備の促進・ 農産物の低コスト化・高品位安定生産の実現・ 畜産の振興・ 食品加工・バイオ人材養成高等教育機関の誘致と研究支援機関設置の推進・ ゼロエミッション産業化の推進

課題	「健康しばた 21 めざせ 100 彩」の推進
----	-------------------------

「健康しばた 21 めざせ 100 彩」は、全ての市民が元気で活動的であり続けるため、子どもからの身体的健康の維持増進と精神的な充実を図り、心身ともに健康で、いきいきと生活を送れることを目的とするものです。

身体的健康面については、生活習慣に起因する疾病を予防し、健康寿命の延伸を図るため、市民が望ましい生活習慣を身につけるよう、「めざせ 100 彩健康づくり推進事業」の充実など、さらなる啓発に努めるとともに、地域に密着した健康指導の実施や本市の地域特性を活かした食育などを通じ、食生活の改善に努めます。

併せて、健康の維持増進と体力づくりのための「継続的な運動」を身につけやすいよう、市民が気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめる環境を整備するとともに、指導者の育成や指導体制の整備を図ります。

また、充実した市民生活を送るためには、身体的な健康ばかりでなく、「こころの豊かさ」が大きな要素となっていることから、市民の趣味や生きがいをサポートし、生涯学習意欲に応えるため、高齢者が活力を発揮できる場の提供や、生涯学習環境、プログラムの充実を推進するとともに、各種団体との連携を強化し、伝統芸能や芸術・文化活動への参加を促進します。

さらに、「健康・福祉・医療スクエア構想」に基づき、健康・福祉・医療各分野の施設の整備や既存施設のネットワーク化を図り、市民の健康面のサポートを充実していきます。

これらに基づき、平成 15 年度においては、総合的な健康づくりを推進するため、健康推進課にめざせ 100 彩推進係を設置し、専任して課題に取り組める体制を整え、各課

所管のイベントと「健康ウォーク」を併せて実施するなど、全庁的な連携を高めてきました。

また、幼児期からの望ましい食習慣確立をめざし、市独自の歌と踊りの作成など、食育事業の強化を開始しました。

平成 16 年度においては、市民参画による健康づくりの取り組みを一層推進し、「めざせ 100 彩」関連事業の充実を図ります。

さらに「健康・福祉・医療スクエア構想」に基づき、健康・福祉・医療各分野の施設ネットワークの核となる県立新発田病院の移転促進のため、新発田駅前土地区画整理事業とその関連事務事業を優先的に取り組みます。

【平成 16 年度の重点基本事業】
<ul style="list-style-type: none">・ センターリングゾーンの整備・ 駅前ゾーンの整備・ 健康づくりの啓発・実践・ 元気な高齢者の活力発揮の推進・ 生涯スポーツ・レクリエーション中核施設の整備充実・ 生涯各期にわたる学習機会の提供・ 生涯学習施設の充実・ 芸術・文化団体の育成と市民運営の確立

課題	「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」の推進
----	----------------------------

「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」は、藩政時代から道学堂を中心として、藩民教育に熱心であったことを背景に、市民の各層・各年代において、本市の特性を活かした施策を展開し、21 世紀の新発田を担う人材の輩出を目的としています。

幼児に対しては、一般的な保育の充実ばかりでなく、幼保一元化の推進により、幼児教育面での充実を図ります。

青少年に対しては、新発田の豊かな自然や地域資源を活かした食農教育や環境教育など、体験学習を取り入れた情操教育を推進するとともに、ALT などを活用しながら「国・英・数」の基礎学力向上に努めます。

さらに、学校週 5 日制の完全実施に伴い、地域ぐるみでの青少年育成の重要性が増してきているため、青少年健全育成施設やプログラムの充実を図るとともに、コミュニティセンターなど、地域における「ひとづくり」の拠点施設の整備を図ります。

また、産業人育成の観点から、起業家の育成に向けた基盤整備やプログラムの充実を

促進し、「雪道後から」の精神からの脱却をめざし、積極的にベンチャー起業や新規分野の開拓に乗り出す「フロンティア・スピリット」の醸成を図るとともに、商工会議所や新潟職業能力開発短期大学などとの連携を強化し、職業能力開発を推進します。

これらに基づき、平成 15 年度においては、延長保育の拡大や「ファミリー・サポートセンター」の開設など、子育て支援機能の充実を図ってきました。

また、保育園や学校教育施設の整備に計画的に取り組み、「ひとつづくり」の環境整備を図ってきました。

平成 16 年度においては、「みどりの新発田っ子プラン」に代表される情操教育プログラムの充実や、「エンゼルプラン」を拡大した次世代育成支援対策推進法に基づく「地域行動計画」の策定など、これらの取り組みをより一層推進します。

【平成 16 年度の重点基本事業】

- ・ 子育て支援機能の充実
- ・ 基礎・基本を身に付け、自ら問題を解決する子どもの育成
- ・ 地域特性を活かした食農教育の推進
- ・ 教育施設整備の促進
- ・ 職業能力開発の促進
- ・ 人材育成の推進
- ・ 起業家への支援の推進

以上 3 つの課題については、引き続き行政分野を越えて全庁的な連携のもと、積極的に取り組むものとします。

以下に、4 つの基本目標ごとに施策展開の基本方針と重点施策を示すとともに、関連する 3 つの課題に係る重点基本事業も再び示すものとします。

〔 1 〕 市民の暮らしを守り支える安心・安全のまちづくり

「食と農の資源循環型社会づくり」の推進に関連し、資源循環システムを実効性あるものとするため、ごみの減量の観点だけでなく、農業や他産業との連携を深め、家畜排泄物や生ごみ、農業集落排水事業の汚泥を原料として良質な堆肥を生産し、有機資源としての活用を推進します。

また、里山や公園の維持・保全に際しては、落ち葉や剪定された枝などの堆肥への活用を推進します。

さらに、良好な生活環境、居住環境を提供するため、上水道の未普及地域解消をめざ

すほか、下水道普及率の向上、道路・公共施設のバリアフリー化を促進します。

中心市街地の整備については、移転後の県立新発田病院を核とした駅前ゾーンの整備を優先的に取り組むものとし、併せて、水のみちゾーン、歴史のみちゾーンなど、各エリアの整備を着実に推進し、地域住民の生活環境の向上を図るとともに、「健康・福祉・医療スクエア構想」に基づき、「健康しばた 21 めざせ 100 彩」の推進につなげていきます。

特に、センターリングゾーンについては、市民をはじめ、都市と農村、地元商店街や観光客などの幅広い交流活動の拠点として「(仮称)地域交流センター」を引き続き整備し、中心市街地の賑わいの創出につなげます。

道路・交通網については、県立新発田病院へのアクセス確保や豊浦町との合併に伴う道路整備を計画的に進めるほか、今後の市町村合併や県立新発田病院オープンを勘案し、公共交通ネットワークの計画づくりを進めます。

また、市民の生命・財産を守り、災害や事故の予防に万全を期すため、引き続き新発田地域広域消防本部などの関係機関や市民団体との連携を強化するとともに、市民の意識啓発や自主防災組織への支援を推進し、防災・消防・救急医療体制の充実を図ります。

さらに、消防機動力や道路整備率の向上に伴い、広域的な出動体制が整ってきたことから、非常備消防組織の再編を検討します。

併せて、新発田川の河川改修や湛水防除事業を着実に推進し、水害の未然防止を図ります。

【平成 16 年度の重点施策】

- ・循環型社会への転換
- ・良好で多様な居住環境の創造
- ・市域のバランスを考慮した中心市街地の整備
- ・効率的な道路・交通網・地域情報基盤の整備
- ・防災・消防・救急医療体制の充実

【平成 16 年度の重点基本事業】

- ・し尿処理汚泥・生ごみ等の堆肥化によるリサイクルの推進（課題 関連）
- ・センターリングゾーンの整備（課題 関連）
- ・駅前ゾーンの整備（課題 関連）

〔 2 〕 子どもから高齢者まで誰もがいきいきと輝くまちづくり

福祉サービス全般について「三助の知恵」による見直しを進め、行政、地域、障害者、高齢者が互いに何ができるのかを考え、「新発田らしい福祉施策」の構築を進めます。

特に「健康しばた 21 めざせ 100 彩」の推進に関連し、生涯現役をめざした健康づくりを基本としながら、健診受診率の向上や医療機関、各種団体、地区組織等との連携を強化し、疾病予防や早期発見・早期治療の環境整備を図ります。

また、望ましい生活習慣の確立・定着のため、めざせ 100 彩健康づくり推進事業の更なる充実を図るとともに、健康づくりへの市民参画の拡大や、関係各課の連携による総合的な健康づくりの推進に努めます。

身体的健康ばかりでなく、全ての市民が各層・各年代において、生きがいを感じ、精神的にも充実した生活ができるよう環境整備を図ります。

高齢者の活力発揮の場として、シルバー人材センターの支援や総合健康福祉センターを中心とした趣味活動・文化活動を推進するとともに、「地域ふれあいルーム」の充実を図り、地域の中で高齢者が孤立せず、健康的な生活を送れるよう支援します。

さらに、総合型地域スポーツ・クラブや指導者バンク制度などソフト面の充実を図ります。

子育てについては、電子メールによる相談や「ファミリー・サポートセンター」などの取り組みの定着や、子ども発達相談の充実などとあわせて、市民ニーズに応えるため、子育て支援のより一層の多様化・弾力化を推進します。

同時に、「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」の推進に関連し、幼児教育の充実を図るため、幼保一元化モデル園整備に向けて、実務レベルでの計画を立案します。

【平成 16 年度の重点施策】

- ・生涯にわたる健康づくりの促進
- ・誰もが生きがいを実感できる社会の構築
- ・子育て支援システムの多様化・弾力化の推進

【平成 16 年度の重点基本事業】

- ・健康づくりの啓発・実践（課題 関連）
- ・元気な高齢者の活力発揮の推進（課題 関連）
- ・生涯スポーツ・レクリエーション中核施設の整備充実（課題 関連）
- ・子育て支援機能の充実（課題 関連）

〔 3 〕 伝統文化の継承と豊かなこころを育む創造のまちづくり

地域ぐるみでの教育がますます重要となっており、家庭、学校、地区組織の連携を強化しながら、「かわいい子には旅プラン」を推進し、地域の青少年健全育成組織の活性化を図るとともに、ボランティア活動や世代間交流など地域での体験活動機会や施設を拡充し、「地域教育力」の醸成を図ります。

学校教育においては、「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」に関連し、「みどりの新発田っ子プラン」の推進や地場産農産物を取り入れた学校給食の実施など、本市の自然資源や地域特性を活かした食農教育、環境教育を中心とした情操教育に取り組むとともに、時代の要請に応えるためのIT教育や国際理解教育など、特徴ある教育プログラムを展開します。

さらに、2学期制など柔軟なカリキュラムの導入についても研究を進めます。

また、全国的に学力の低下が憂慮される中、ALTなどを活用しながら、「国・英・数」の基礎・基本的事項の定着化を推進し、学力向上をめざします。

さらに、引き続き年次的な教育施設の整備を推進し、特に共同調理場については、地場産農産物を活用した地産地消の取り組みを踏まえ、効率的な整備・運営を図ります。

一方、「健康しばた 21 めざせ 100 彩」の推進に関連し、市民が身体面ばかりでなく、精神的にも充実した生活を送れるよう、各種生涯学習施設の役割分担を明確化し、適正な施設整備を図るとともに、多様な生涯学習プログラムを提供し、文化活動や余暇活動への積極的な参加を促進します。

併せて、関係団体の育成支援、自主活動のための環境整備を図り、地域特有の伝統文化の継承・保存や芸術・文化活動への参加を通じて、市民の趣味や生きがいの観点から「健康しばた 21 めざせ 100 彩」を推進するとともに、地域の活性化につなげていきます。

また、「新発田城三階櫓・辰巳櫓」を核として、新発田城址公園との連携や、五十公野御茶屋などの地域の歴史遺産とのネットワーク化を推進し、新発田マインドの醸成や地域文化の創造、都市と農村の交流や中心市街地の賑わい創出につなげていきます。

【平成 16 年度の重点施策】

- ・ 「地域教育力」の醸成
- ・ こころの教育（情操教育）の推進
- ・ 魅力ある地域特性を活かした教育環境の整備
- ・ 歴史遺産の保全と活用による地域文化の創造

【平成 16 年度の重点基本事業】

- ・基礎・基本を身に付け、自ら問題を解決する子どもの育成（課題 関連）
- ・地域特性を活かした食農教育の推進（課題 関連）
- ・教育施設整備の促進（課題 関連）
- ・生涯各期にわたる学習機会の提供（課題 関連）
- ・生涯学習施設の充実（課題 関連）
- ・芸術・文化団体の育成と市民運営の確立（課題 関連）

〔 4 〕 豊かな市民生活を実現する産業振興によるまちづくり

「農村マスタープラン」「食料供給都市構築戦略」に基づき、引き続き生産基盤の整備や稲作の低コスト生産、複合営農を推進します。

また、新発田らしい新たな農業の展開をめざし、アグリビジネスの担い手の育成支援や各種施設の機能を強化し、農のベンチャーに対する生産から流通に至るまでの総合的支援体制の整備を図るとともに、食品加工技術開発への取り組みなど、加工食品時代に対応した農業の確立を目指します。

引き続きカドミウム対策のための「土づくり」を推進するとともに「食と農の資源循環型社会づくり」の推進に関連して、堆肥センターの建設を最優先に取り組むとともに、有機資源の循環システムの確立や、推進環境と調和した農業を一層推進する観点から、農業と食品関連産業の連携を強化し、家畜排泄物をはじめ、食品加工残さの堆肥化及び耕地還元を促進します。

さらに、消費者の視点に立った食品の安全性の観点から、農薬や化学肥料の使用に依存した農業からの脱却をめざし、堆肥の耕地還元を推進するとともに、有機農業による農産物の付加価値化の観点からも積極的な「土づくり」を推進します。

また、昨今話題となっている「スローフード」の観点を盛り込んだ事務事業の研究と学校給食や第 3 セクターでの地産地消の拡大に取り組みます。

一方、食農系高等教育機関の誘致や既存教育機関での食農系カリキュラムの創設を働きかけ、将来的な農業・食品関連産業への人材提供や特産品の研究・開発の促進につなげていきます。

併せて、「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」に関連し、関係機関との連携を強化し、就業者の職業能力開発を推進します。

さらに、起業家や新規分野を開拓しようとする企業の積極的な育成支援を図るとともに、本市の商標登録を活用した新たな事業分野の開拓を検討します。農業・商工業・観光業などの総合的な産業支援組織・機構の設置を推進し、産・官・学の交流事業やセミ

ナーの開催など、新規企業・新分野進出への支援を促進します。

また、「(仮称)地域交流センター」を核としたセンターリング・ゾーンを中心として、各種イベントの連携による市内外の交流を活発化し、中心市街地の賑わい創出を促進します。

【平成 16 年度の重点施策】
<ul style="list-style-type: none">・収益性を追求する農業の推進・加工食品時代に対応した農業の確立・多様な担い手の育成・食品産業立地の優位性の創造・起業家の育成支援・産業支援機能・制度の構築
【平成 16 年度の重点基本事業】
<ul style="list-style-type: none">・農産物の低コスト化・高品位安定生産の実現（課題 関連）・畜産の振興（課題 関連）・食品加工・バイオ人材養成高等教育機関の誘致と研究支援機関設置の推進（課題 関連）・ゼロエミッション産業化の推進（課題 関連）・職業能力開発の促進（課題 関連）・人材育成の推進（課題 関連）・起業家への支援の推進（課題 関連）

3 施策展開の推進体制

「食と農の資源循環型社会づくり」、「健康しばた 21 めざせ 100 彩」、「ニューフロンティア 21 新発田ひとづくり」の優先的に取り組むべき 3 つの課題（重点基本事業）と各基本目標毎の重点施策の推進に当っては、引き続き「行政評価システム」を活用しながら、その精度向上をめざすとともに、「まちづくり総合計画」の進行管理、予算編成と連動した、一連の年次サイクルを確立します。

また、予算編成に当っては、限られた財源の中で効率的・効果的な施策展開を図るため、本大綱に示す基本方針に基づき、「平成 16 年度当初予算編成方針」において事業経費に係る施策毎の予算枠を配分します。

このため、各施策、各基本事業の主管課にあっては、既存事務事業のより一層の改革・改善と、本大綱に示す施策展開の方針に沿った効果的な事務事業を編成すべく、「施策企画会議」「基本事業企画会議」「施策・基本事業企画会議」において、徹底したスクラップ・アンド・ビルドに努めるものとします。

さらに、優先的に取り組むべき3つの課題については、平成15年度に資源循環型社会づくりプロジェクトや、めざせ100彩推進係の設置など、専任して課題に取り組める組織・人事体制の構築を図ってきましたが、平成16年度においては、これらの部署を中心として、庁内の横連携をさらに深め、行政分野を横断した総合行政の一層の推進に努めるものとしします。

平成16年度政策大綱マトリックス

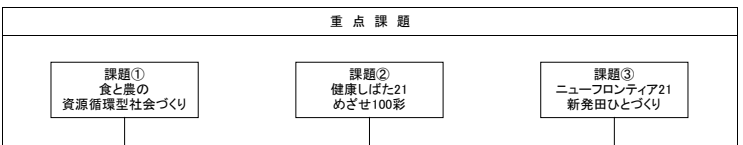
将来都市像

基本目標

政策

施策

平成16年度の重点施策



愛せるまち 誇れるまち ふるさと新発田の創造

食料供給都市

